

Title	<記事>4.水族館記録 2002年
Author(s)	
Citation	瀬戸臨海実験所年報 = Annual report of the Seto Marine Biological Laboratory (2003), 16: 7-14
Issue Date	2003-12-25
URL	http://hdl.handle.net/2433/179020
Right	
Type	Departmental Bulletin Paper
Textversion	publisher

4. 水族館記録 2002年

1. 研究・教育

- 1月17日- 2月 2日 ファン・ティン院生(奈良女子大学)が、第3水槽棟屋上培養室でクモガニ類に対する魚類の捕食に関する実験を行った(以降、断続的に実施)。
- 2月 5-26日 和田 洋助手の研究用マボヤ蓄養水槽(約100ℓ。チリングユニットを接続)を、第3水槽に設置し、飼育海水を常時8℃に冷却した(2月14日から約50個体を蓄養)。
- 2月26日 和田 洋助手の研究用メダカ蓄養水槽(約300ℓ)を、第2水槽棟と第3水槽棟との間のジョイントホールに設置・整備した。
- 3月19-22日 公開臨海実習生(13名)および京都大学理学部生物系臨海実習2部学生(11名)の見学を指導した。
- 4月 3日 繁宮悠介院生(京都大学人間環境学部)の研究用クサフグ11尾を酸素パッキングし、輸送に協力した。
- 4月 4日 三瀬武史院生の研究用メダカ蓄養水槽を、第2水槽棟と第3水槽棟のジョイントホールに設置した。
- 5月 1日 リンボウガイに対する炭酸ガス(200ppm)の影響を調べる実験(301号水槽で展示。瀬戸臨海実験所年報, Vol. 15, p. 8)が、一年を経過したが、さらに半年間継続することとした。
- 5月14日 奈良教育大学教育学部臨海実習生(14名)の見学を指導した。
- 5月26日 放送大学京都学習センター公開講座(面接授業)実習生(17名)の見学を指導した。
- 7月10-11日 大阪市立大学理学部臨海実習生(19名)の見学を指導した。
- 7月22日 大阪教育大学教員養成課程臨海実習生(15名)の見学を指導した。
- 7月25日 大阪大学理学部臨海実習生(19名)の見学を指導した。
- 7月31日 京都大学大学院人間環境学研究科臨海実習生(21名)の見学を指導した。
- 8月11日 近畿大学水産生物学臨海実習生(35名)の見学を指導した。
- 8月11日 京都大学理学部生物系1部臨海実習生(5名)の夜間見学を指導した。
- 8月12日 京都大学理学部生物系1部臨海実習生(5名)の見学を指導した。
- 8月22日 京都教育大学教育学部臨海実習生(13名)の見学を指導した。
- 9月10日 公開臨海実習生(5名)および京都大学理学部生物系臨海実習1部学生(15名)の見学を指導した。
- 9月25日 岩部直之助手及び勝部 悟院生(京都大学理学研究科)が、予備水槽から研究用のカイメン類を採集した。
- 10月21日-11月21日 繁宮悠介院生(京都大学人間環境学部)が、第3水槽棟屋上培養室の水槽を利用して、クサフグの人工餌に対する捕食実験を行った。
- 10月30日 リンボウガイに対する炭酸ガス(200ppm)の影響を調べる実験(301号水槽で展示)が、1年半を経過したが、さらに半年間継続することとし、各個体の再マーキングを行った。
- 11月 5日 トラフグ1尾(全長33.4cm・体長26.8cm。101号水槽)を、和田 洋助手に研究用として提供した。
- 11月 6日 白浜町立白浜中学校の「職場体験学習」(2年生4名)を実施した。
- 12月 1日 「浜辺の観察教室」((社)瀬戸内環境保全協会主催)で、白浜町立西富田小学校1-6年生(81名)の見学を指導した。
- 12月 3日 和田 洋助手の研究用マボヤ蓄養水槽(約100ℓ。チリングユニットを接続)を、第3水槽に設置し、飼育海水を常時8℃に冷却した。
- 12月18日 白浜町立白浜第一小学校6年生(4名)の聞き取り調査に応じ、見学を指導した。

2. 普及(報道関係は放送および掲載分のみ)

- 1月17日 紀伊民報(新聞社)が、ヤマトメリベ(4. 収集・飼育・展示の1月11日を参照)を取材した(1月20日付)。
- 3月 4日 (社)大阪自然環境保全協会・大阪自然文化塾一行(31名)を、バックヤードを含めて案内した。
- 3月29日 灘中学校・高校一行(12名)を、バックヤードに案内した。
- 4月11日 ヒクラゲなど、毒性の強い4種のクラゲの展示(標本とパネル)に関する記事が、紀伊民報(夕刊新聞)に掲載された。
- 10月 4日 奈良県立西の京養護学校小学部一行(生徒5名、教師4名)を案内した。
- 12月19日 NHKテレビが、栗原晴子院生および白山義久所長の研究(ウニの受精率と奇形率に及ぼす二酸化炭素の影響を調べる実験)を取材した(12月29日18:00-全国ニュースで放映)。

3. 機械・設備

- 4月 9日 第4水槽棟第1循環系統濾過槽下のバタフライバルブを、業者が交換した。
- 5月 5日 各水槽棟の加温運転を終了した(前年11月20日から運転)。
- 6月13日 第4水槽棟のNo. 2ブロワが焼き付き、停止した。以降、7月16日までNo. 1ブロワを連続運転した。
- 6月17日 第1水槽棟のNo. 1揚水ポンプの修理を、業者が行った。
- 7月 8-17日 各海水循環系の重力式濾過槽(第1・2・4水槽棟地下室に計15槽、130m³)を、逆洗と水中ポンプからの吹き出しを併用して徹底洗浄した。
- 7月11日・15日 第1水槽棟機械室から南浜への排水口が、台風6号及び7号のうねりによって砂で埋もれたため、かき出し作業を行った。
- 7月16日・17日 第2及び第4水槽棟機械室のブロワー計4台のオーバーホールを、業者が行った。
- 7月19日- 9月22日 冷却チャラー(第4水槽棟機械室)を運転し、第3・4水槽棟各循環系統の水温を27-28℃に維持した。
- 7月24日- 9月19日 チリングユニット(第1水槽棟機械室)の冷却運転を行い、101号水槽および第2水槽棟各循環系等の水温を27-28℃に維持した。
- 7月24日 南浜の海水取水口会所の上蓋を、磨耗したコンクリート製からステンレス製のものに更新するため、業者が大潮の低潮時に施工した。
- 8月 6日 201-220号水槽の補助照明として、バイク用ヘッドライト(12V・30W)を各水槽水槽上方に1基ずつセットし、点灯を開始した。これにより、展示中の無脊椎動物をスポットライト的に照射し、外部形態をより詳しく観察することが期待できる。
- 11月 5-12日 各海水循環系統濾過槽の徹底洗浄を行った。
- 11月 5日 第4水槽棟機械室の保温チャラーを運転し、各循環系統を20-22℃に維持した(翌春まで)。
- 11月 6日 第2水槽棟機械室のボイラーを運転し、各循環系統および101号水槽を20-22℃に維持した(翌春まで)。

4. 収集・飼育・展示

- 1月 2日 タコクラゲ2個体(202号水槽クラゲ用吊り水槽。昨年8月27-30日に田辺湾で5個体採集)が、酸素欠乏により死亡したため、サカサクラゲ3個体を予備水槽より

移して展示した。

- 1月 8日 214号水槽(「棘皮動物 ウミユリ綱」)で自然繁殖した小型イソギンチャクを駆除するために、展示動物を取り出して淡水張りとした(1月11日再展示)。
- 1月11日 ヤマトメリベ1個体(全長45cm)の提供を、米島久司氏(近畿大学水産研究所白浜実験場)より受け、303号水槽へ展示した。水産研究所の船着場で遊泳しているところを、バケツで採捕。1月16日と1月21日にリボン状の卵嚢を産んだが、1月23日に死亡した。
- 1月29日 ハブクラゲ・エビクラゲ各1個体(久保田助教授提供)の、ゲル保存液液浸標本を作製した。標本瓶の蓋をシリコンシーラント止めにし、1月31日にウォールケースに追加展示した。
- 2月23日 シロタスキベラ(全長25.8cm・体長22.2cm、303号水槽)が水槽から飛び出して死亡したため、標本にした。2000年11月21日、岡本昭生氏(白浜漁協富田浦支所)より購入(当時の全長約25cm)。
- 2月26日 マボヤ28個体(全長10-13cm、三陸産・養殖)を、和田 洋助手より提供を受け、302号水槽に展示した(11月2日まで)。
- 3月 7日 サカサクラゲ2個体(202号水槽内のクラゲ用吊り水槽)のうち1個体が死亡し、他にも不調のため展示を中止し、この吊り水槽を撤去した。
- 3月12日 ミズクラゲ8個体(田辺湾内ノ浦産)を、上記クラゲ用吊り水槽に展示した。
- 3月13日 田辺市内ノ浦干潟で、ヤマトオサガニ7個体・トビハゼ7尾を採集し、401号水槽(「干潟」)へ追加展示した。
- 3月22日 ハリセンボン1尾(尾部が欠損しているが、傷口はすでに治癒。体長約10cm)の提供を、正木俊治氏(白浜町)より受けた。串本沖30km、ケンケン釣にかかった。
- 3月28日 ハブクラゲ6個体のホルマリン漬け標本(沖縄島産)の提供を、岩永節子氏(沖縄県衛生環境研究所)から受けた。
- 4月 6日 メガネウオ1尾(全長約22cm、305号水槽。2000年4月28日に購入。田辺湾産)が死亡した。週に2度、アジの切り身を給餌棒の先に突き刺して与えていた。
- 4月12日 イッテンアカタチ1尾(全長約70cm)を、岡本昭生氏より購入し、406号水槽へ収容した。5月には、表層近くまで上がってきて、アジ切身を摂食するようになったが、6月11日に尾部の傷が悪化して死亡した(湿重250g)。
- 4月15日 オオウナギ(全長63.6cm・体長62.1cm・湿重772g。予備水槽)が、給気停止による水質悪化により死亡し、標本にした。2000年8月3日、白浜町江津良の側溝で捕獲。
- 4月16日 ミズクラゲ4個体を田辺市内ノ浦(田辺湾奥)で採集し、202号水槽のクラゲ用吊り水槽に、衰弱したアカクラゲに代えて展示した。
- 4月17日 シマイセエビ1個体(雄・湿重約1kg)を、岩城弘司氏(白浜漁協)から購入した。高島付近、水深10mで、エビ刺網にかかった。
- 4月18日 ナヌカザメ1尾(雌・全長約90cm・湿重9kg)を、真鍋克次氏(白浜漁協)から購入し、407号水槽(「深み」)に展示した。田辺湾内でエビ刺網にかかった。
- 4月24日 雑賀崎(和歌山市)の一本釣漁師5人から、エイラクブカ・ホウボウなどを購入した。雑賀崎漁師から魚類を購入するのは6年振りのことである。10年ほど前までは、当館の魚類収集の大半を、雑賀崎漁師に負っていたが、近年は高齢化により、一本釣漁業者数が激減した。
- 5月 2日 チゴガニ25個体・ヤマトオサガニ10個体・トビハゼ6尾を田辺市内ノ浦の干潟より採集し、401号水槽に追加展示した。
- 5月 3日 207号水槽(「軟体動物 マキガイ綱・ニマイガイ綱」)で、イソギンチャクの一種が、貝殻上や水槽壁面に無数に自然繁殖したため、水槽の大掃除を行った。

- さらに、給排水システムを、これまでの開放式から循環式(第2水槽棟・第1系統)に切り替えて、付着動物の発生を抑えることにした。
- 5月 7日 401号水槽(「干潟」・テラリウム)の空気を保温していた、温風器・サーモスタット・ビニール製上蓋を撤去した。
- 5月 9日 ヒメツバメウオ1尾(全長153.8mm・体長118.2mm・湿重78.5g。303号水槽)が死亡した。1999年8-9月に白浜町袋湾で採集した5尾のうちの1尾で、当時の全長43.0-70.6mm。生残しているヒメツバメウオは2尾である。
- 5月10日 第4水槽棟第2循環系統の魚類に軽度の白点病が認められ、硫酸銅280g(0.2ppm)を投薬した。
- 5月14日 エイラブカの産仔魚3尾が、101号水槽のオーバーフロー溝で腐乱しているのを発見した。
- 5月17日 216号水槽(「棘皮動物 ヒトデ綱・クモヒトデ綱」)に、研究用イトマキヒトデ21個体(富山湾産)を松原未央子院生(富山大)より借用し、展示した。
- 5月22日 イボオコゼ1尾(全長約5cm)の提供を、真鍋 馨氏(白浜町)より受けた。白浜町田尻沖(田辺湾)水深15m、ドレッジで捕獲。
- 5月28日 カバミナシ1個体(殻長102mm)の提供を、鈴木 昌氏(白浜町)より受けた。白浜町湯崎大島付近産。
- 5月30日 ミズクラゲ3個体を白浜町古賀浦(田辺湾奥)で採集し、202号水槽のクラゲ用吊り水槽に追加展示した。
- 6月 5日 ダルマオコゼ1尾(全長約2.5cm)の提供を、真鍋 馨氏(白浜町)より受けた。
- 6月 7日 ノコギリモク5個体(全長30-50cm。3個体は石に付着したまま)を、白浜町袋湾から潜水採集し、402号水槽(「藻場」)へ展示した。その一帯で繁茂するノコギリモクは、一般の生育時期とは異なり、春から晩秋に生育する。このため、目立った海藻が少なくなる夏〜秋に、袋湾のノコギリモクの群落は、貴重な展示資料となる。
- 6月19日 マアジ120尾・マルアジ2尾・ムロアジ8尾・モロ1尾・ゴマサバ8尾(全長14-18cm)を岡本昭生氏から購入し、226号水槽(「群れをつくる小魚」)へ展示した。
- 6月28日 タコクラゲ2個体(傘径3cm・5cm)を、袋湾(白浜町)から採集し、202号水槽のクラゲ用吊り水槽へ展示した。
- 7月 1日 ジャノメアメフラシの巨大個体(全長約45cm・湿重4kg)の提供を、真鍋 正氏(白浜町)より受けた(畠島の西側、水深4mで潜水採集)。7月3日に302号水槽へ展示したが、8日に死亡した。
- 7月 2日 カゴカキダイ20尾(全長約8cm)を、岡本昭生氏より購入し、自然繁殖する小型イソギンチャクの駆除用として第2水槽棟の10水槽へ分配収容した。それまで、これらの水槽で自然繁殖するイソギンチャクとニホンウミケムシの駆除者として約1年間活躍し、生長したカゴカキダイ12尾・ハタタテダイ2尾・カワハギ2尾は、410-2・3号水槽と411-3号水槽へそれぞれ収容した。
- 7月 9日 413号水槽を二分していた、水槽中央の仕切り板を抜き去り、両方の魚が自由に行き来できるようにした。また、両区画でブロックの追加・組み直しをして、より隠れ場所が増えるようにした。この水槽で展示している魚は、スズキ科1種・ハタ科16種・イシダイ科2種・フエダイ科1種である。
- 7月11日 台風6号のうねりで北浜に打ち上げられたものの中から、マガキガイ50個体を採集し、殻を割って、101・208号水槽の餌とした。
- 7月15日 タイリクスズキ(404号水槽)が、外傷が悪化して死亡した。全長52.7cm・体長44.5cm・湿重1250g。2001年5月15日、白浜町寒サ浦で手網により捕獲(当時の全長約7cm)。

- 7月20-23日 101号水槽のスギ・トラフグの眼球表面が白濁しているため、白点病の疑いがあり、硫酸銅300g(0.2ppm)を延べ2回、投薬した。
- 7月20日 オオモンイザリウオ(全長約30cm。305号水槽)の腹部が膨張し、水面に腹を上にして浮くため、予備水槽に取り出し、喉の中に指を突っ込んで胃内容物を吐き出させた。すると腐敗臭のあるガスとともに、未消化のダルマオコゼ1尾(全長16cm)が出てきた。直後に姿勢は安定し、305号水槽へもどしたが、8月1日に死亡した。
- 7月22日 モンツキイシガニ1個体(雄・甲幅約10cm)の提供を、真鍋克次氏より受けた。
- 7月23日 マダラトラギス(全長22cm・湿重150g。303号水槽)が死亡した。1999年8月12日、岡本昭生氏より購入(当時の全長約15cm)。
- 7月23-25日 ウォールケース(「特集 刺胞動物」)内のアルコール液浸標本4個の液補充を行い、蓋をシリコンシーラントでシールした。蓋が固くて開けられなかったガラス標本瓶は、ドリルで底部に穴を開け、液補充後、PVC板をシリコン接着して穴を塞いだ。
- 7月26日 キスジキュウセン1尾(雄・全長172.8mm・体長145.1mm・湿重65.5g)を、岡本昭生氏より購入し、予備水槽に収容したが、酸欠のため死亡した。写真撮影後、標本とした。
- 7月27日 エラブウミヘビ1個体(全長約30cm)の提供を、辻 照章氏(白浜漁協)より受けた(瀬戸港内で手網により捕獲)。予備水槽に収容し、オキアミの摂餌は良好だったが、8月20日に死亡。
- 7月29日 タコクラゲ6個体を内ノ浦(田辺湾)で採集し、202号水槽のクラゲ用吊り水槽に追加展示した。
- 7月30日 タイラギ1個体(殻長13cm。228-4号水槽で、ガラス容器で砂に半ば埋めて展示)が、死亡した(2001年11月20日、袋湾で潜水採集)。動物性のミンチ汁のみを餌にしていたが、予想以上に長生きした。
- 8月 5日 長期飼育していたサカタザメ雌(全長91cm・体長79cm・湿重2.6kg。406号水槽)が死亡した。1999年3月28日、大江富夫氏(白浜漁協)より購入(当時の全長約80cm)。
- 8月12日-11月22日 クロダイ・クロサギ・カスミアジなど、15種135尾の幼魚(白浜町安久川川口・大浦・寒サ浦・日置川町日置川川口で釣獲)の提供を、荒賀忠一氏(白浜町)より11回に及んで受けた。
- 8月22日 ニシキエビ1個体(全長約27cm)を、真鍋善明氏(白浜漁協)より購入し、226号水槽へ展示した。ニシキエビの入館は3年ぶり。
- 8月26日 ハクセンシオマネキ雌雄各1個体を、古賀浦の干潟で採集し、401号水槽へ展示した。
- 8月27日 ノコギリモク4個体(全長40-60cm、石に付着)を、白浜町袋湾から潜水採集し、402号水槽へ展示した。また同時に、ミドリイシの1種(枝状)5群体(径10-40cm)を採集し、201号水槽と403号水槽へ展示した。
- 8月29日 タコクラゲ1個体(傘径10cm。田辺湾産)の提供を、丸中商店(鮮魚店)より受けた。
- 9月11日 長期飼育のチカメキントキ(全長57.2cm・体長43.3cm・湿重5.3kg。407号水槽)が、死亡した。1998年12月9日、岡本昭生氏から購入(当時の全長22cm)。
- 9月24日 コバンザメ1尾(全長33.6cm・体長30.0cm・湿重90g)を、中島保彦氏(白浜町)より購入した。
- 10月 9日 エビクラゲ1個体(傘径約30cm)を、遊漁者からの電話連絡を受け、南浜突堤の西側岩礁のタイドプールより採集した。翌日、303号水槽に多孔PVC板で仕切りを

- して展示したが、10月29日に死亡した。
- 10月12日 ノコギリガザミ1個体(雄・甲幅19.8cm・湿重2150g。由良湾産)の提供を、中村和彦氏(日高郡由良町)より受けた。213号水槽へ展示したが、14日に死亡した。
- 10月16日 403号水槽(「岩礁 黒潮の豊かな生物」)の展示動物の入れ替えと同時に、底砂の洗浄など大掃除を行った。
- 10月17日 チゴガニ50個体・ヤマトオサガニ17個体・トビハゼ10尾を、内ノ浦干潟で採集し、401号水槽へ追加展示した。
- 10月17日 チワラスボ1尾(全長15.7cm・体長13.3cm・湿重30g)を、田辺湾水深27mの泥底より採泥器で採集した(21日に予備水槽で死亡)。
- 10月21日 229号水槽(「磯の生物」)を大掃除し、メジナ・クロメジナ・メバルなど、幼魚への更新を行った。
- 10月23日-11月20日 404-411-3号水槽で、底砂を攪拌・洗浄し、壁面・ガラス面・石組みなどの大掃除をした。同時に一部の魚類の整理を行った。
- 10月23日 ササムロ35尾(全長約12cm)を、岡本昭生氏より購入し、226号水槽へ展示した。
- 10月24日 トゲウジ1尾(全長20cm)の提供を、真鍋克次氏より受けた。昆島の東、水深2mでエビ刺網にかかった。
- 10月29日 401号水槽(「干潟」；テラリウム)にビニールの覆いをして、温風器をセットし、水槽内の気温を常に20℃以上に保温した。
- 11月25日 222-223号水槽の大掃除を行った。底砂を攪拌・洗浄し、壁面・ガラス面・石組みを掃除した。
- 12月 2日-翌年 吊り槽(水槽の中に漬け、上方から吊るした展示容器で1993年自家製作)前面のPVC板の透明性が低下してきたため、新規作成・改良を行った。新規作成した吊り槽は、202・208・210・212・213・218号水槽用で、PVC多孔板(3mm厚)を壁面として用い、前面に板ガラス(5mm厚)を接着した。改良した水槽は、211号水槽用で、従来の透明PVC板を切り取り、その部分に板ガラスを接着した。
- 12月 6日 ウシバナトビエイ1尾(雄・体盤長57.5cm・体盤幅83cm・湿重9kg)を、浜路安和氏(南部漁協)から購入した。殺菌薬浴後101号水槽へ展示したが、翌日死亡した。
- 12月11日 マボヤ50個体(全長10-13cm。三陸産、養殖)を和田 洋助手より提供を受け、302号水槽に展示した。
- 12月11日 冷凍ミンチ汁入りのペットボトル(主としてプランクトン食者の無脊椎動物用餌料として開発。2001年1月より第2水槽棟の11個の水槽で毎日、給餌。0.5ℓと1ℓサイズ)の水槽への設置方法を改めた。これまでは、各水槽の上方でホルダーにセットし、自然滴下させていたが、①溶け出した後に、餌カスがボトル内部に付着し、乾燥して、回収後の洗浄が手間取る、②溶け出る時間が、気温に大きく左右され、夏は昼過ぎに、冬は夜中になってからなくなる、③最初の溶け出しが濃く、後になるほど薄くなる、などの難点があった。改良点は、ペットボトルの口が、水面下に常に浸っているように、ボトルホルダーを少し下げただけである。これにより、ミンチ汁が溶け出していくにつれて、徐々に海水と置き換わり、ボトル内部は乾燥せず、回収後の洗浄も楽になった。また、温度変動幅の少ない水温の影響を受けるため、溶け出る時間も、冬と夏とでそれほど大きく変わらない。
- 12月17日-翌年 206号水槽(「軟体動物 マキガイ綱」)より、観覧通路側へ漏水した。ガラス周辺のシリコン切れが原因だったため、海水を抜いて、シリコン打ち直し作業を行った。
- 12月18日 ペットボトルに詰めた冷凍ミンチ汁を、302号水槽(カワリギンチャク類を展示)にも投与することにした。

5. 生物観察メモ(水槽・野外)

- 1月 6-9日 シマスズメダイ13尾(全長14-16cm。屋外水槽)が、水温低下により死亡した(この期間の開放式給水最低水温は12.3℃)。
- 1月12日 ミドリイガイ(外来種)の大型個体(前後軸長132.2mm)を、白浜町古賀浦の海岸(コンクリート壁面)で採集した(南紀生物44(1)参照)。
- 1月28日 チゴガニ14個体(401号水槽チゴガニコーナー)のウェイピング行動が、季節的に早くも観察された(14時頃)。チゴガニコーナーには約0.86㎡の泥を敷き詰め、約30個体の雄チゴガニと数個体の雌を飼育している。なお、冬季には、このテラリウムの気温および水温を20℃以上に加温している。
- 3月 3日 ゴマモンガラ1尾(全長約10cm。403号水槽)が、ニシキウズガイやツマジロナガウニを捕食し始め、底砂上に食われた後の殻が目につくようになってきた。
- 3月 5日 マンボウ1尾(全長約60cm)が、白浜漁協富田浦支所の漁師によって釣獲され、袋湾内のイクスに収容されていたが、当館には十分な飼育設備がないことから購入を断念した。マンボウは、漁師によってその場で放流された。
- 3月19日 アカクラゲ1個体を田辺湾奥から採集し、ミズクラゲと共に202号水槽に展示したが、3月23日、ミズクラゲ1個体がアカクラゲの触手に変形した状態でくっついているのが認められた。残りの1個体も水槽の底で崩壊していたことから、アカクラゲの触手に触れて攻撃を受けたものと思われる。
- 3月19日 フナムシ(220号水槽)が、脱皮殻を食べているところを目撃した。これまで、このテラリウムの中で脱皮殻や死体がほとんど見られなかったことから、かなり速やかに同種個体によって食べられるものと思われる。
- 3月28日 アカクラゲ約30個体・オキクラゲ約60個体・オワンクラゲ4個体が、実験所の北浜に打ち上げられていた。
- 3月31日 16時頃、207号水槽のガラス・壁面におびただしい数のミズヒキゴカイの1種(底砂の中で自然繁殖したものと思われる)が付着し、水槽が白濁していた。このゴカイが集団産卵したものと思われる。同様の現象が、4月2日の16時頃、220号水槽でも認められた。
- 4月19日 アカクラゲ52個体・ミズクラゲ22個体が実験所の北浜に漂着していた。
- 4月30日 腹部膨張状態で死亡したマルアジ1個体(全長27cm)を解剖したところ、卵がぎっしり詰まっていた。
- 5月 6日 204号水槽に、4月11日に収容したカゴカキダイ1尾(全長約7cm)が、水槽内で自然繁殖するイソギンチャクを捕食し、効果的に駆除しているようであった。なお、展示種のケヤリやカンザシゴカイが、カゴカキダイからかじられるなどで、影響を受けてはいない。
- 5月20日 カクレウオの1種(全長約6cm)が、228-4号水槽(30ℓ)で泳いでいるのが発見された。展示動物はアカヒトデ3個体・キスズメガイ多数・タイラギ2個体であることから、アカヒトデに寄生していたものと思われる。その後、しばしば目撃されたが、6月10日頃から見られなくなった。
- 6月24日 ヤツデスナヒトデ1個体(幅長28.5cm)を、実験所の北浜水深2mで潜水採集し、すぐに215号水槽へ収容したところ、放卵か放精が誘発されて飼育海水が白濁した。また、腕にトガリマルガザミ1個体(雌・甲幅16mm)が共生していた。
- 7月 4日 403号水槽で、白化したイシサンゴ類を回収したが、それらのうちミドリイシの1種(8.5cm×10cm)は、石組みの表面に底面周辺部の大部分が活着していた。
- 7月15日 台風7号のうねりにより、南浜に多数のギンカクラゲが打ち上げられた。
- 8月 6日 403号水槽(「岩礁 黒潮の豊かな生物」、24㎡)で、ソラスズメダイ雄1尾の営巢

行動を観察した。底砂と落下したエンタクミドリイシの骨格との隙間の中に入り、尾で砂を外に刷き出したり、サンゴ片を口でくわえて、外に運び出したりしていた。後に、雌1尾が、雄の誘いで巣穴の中に入ったのが観察されたことから、産卵に至ったものと思われる。

- 8月28日 403号水槽から、ニシキウズ65個体・ギンタカハマ3個体の貝殻を回収した。これらはすべて、ゴマモンガラ1尾(全長約15cm)が、殻の一部を割り、肉片を引き出して食べた残骸である。このほか、数量の確認はしていないが、ツマジロナガウニ・ホンナガウニ・ラッパウニもすべて食われたが、クロウニ・シラヒゲウニ・タコノマクラは生残した。
- 9月17日 タワシウニ3個体(218号水槽)が、石組み目地部分のモルタルに穿孔しているのを確認した。
- 9月26日 101号水槽で、ギンガメアジ1尾が体全体が黒ずみ、他の1尾を追尾する行動を確認した。
- 10月16日 403号水槽の大掃除を行ない、展示動物を再収容した直後に、ニセクロナマコ3個体が放精し(乳白色の液体を放出)、1個体が放卵した(赤レンガ色の液体を放出)。
- 10月22日 408号水槽で、ゴマモンガラ1尾(年齢1+・体長13.4cm・湿重175g)が、種内闘争に敗れて死亡した。このゴマモンガラは、10月16日、403号水槽から移した個体で、前年、この水槽に移した、1歳年上の個体(全長約18cm)から執拗な攻撃を受けた。なお408号水槽には、全長約40cmの成熟したゴマモンガラが以前からいるが、この個体が、これらの幼魚を攻撃することはなかった。
- 10月24日 トラフグ幼魚8尾(平均全長約16cm)を、前日に予備水槽から101号水槽(水量240m³)へ移したが、すべて、以前からこの水槽にいたトラフグ成魚1個体(全長約40cm)に攻撃を受け死亡した。同時に404号水槽から移した2尾(全長約33cm)は無事だった。
- 11月12日 オビテンスモドキ1尾(全長約15cm。303号水槽)を、10月16日に403号水槽から移して以来、まったく姿を見せなかったのので、底砂の中を探ってみた。すると、砂中から勢いよく飛び出てきた。この水槽では、早朝ないし夕方、人の気づかない時間帯に、砂から出て索餌しているものと思われるが、403号水槽では、開館時間中はごくふつうに遊泳していた。

6. その他

- 1月31日- 2月 1日 田名瀬英朋助手が、日本動物園水族館協会近畿園館長会議(須磨海浜水族園)に出席した。
- 2月15日 田名瀬英朋助手が、日本動物園水族館協会飼育技師試験(アドベンチャーワールド)に立ち会った。
- 2月18日 出口の自動ドアが故障し、業者が修理した。
- 4月22日 228号水槽台のタイルが割れて危険なため、塩化ビニール透明板(2mm厚)でカバーを作成し、全体を保護した。
- 6月 5-6日 田名瀬英朋助手が、日本動物園水族館協会近畿ブロック研修会(海遊館)に出席した。
- 7月10日 台風6号が接近したため、県道臨海線の南側道路が完全通行止めとなり、午後、水族館を休館とした。
- 8月10日 森山眞弓法務大臣が、所長の案内で見学した。
- 10月22日 1987年から稼動していたトラック(1800cc)を、廃車した。